

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	135青少年の健全育成		
施策のねらい(めざす姿)	青少年が、社会性や社会規範を身につけ、自己を確立し、協調性や連帯感を育んでいます。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	生涯学習部次長
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	マネージャー氏名	小松崎 佳之

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	青少年の健全育成に関わる団体と連携し、子ども達への体験活動を提供していく。また、関係機関と連携し、街頭パトロールの強化、「かまがや83+運動」の継続した啓発、推進に取り組んでいく。	③改革・改善内容	各団体の支援者や、行事への参加者を増加させるため、学校や保護者等に対する広報に努める。また、関係機関と連携し、街頭パトロール、子ども達や保護者からの相談受け付け、「こども110番の家」の設置の推進などを重点として活動する。
②①に基づく取り組み結果	各団体へは活動のための補助を行い、事業実施に向けて準備したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各行事は中止となった。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	青少年	意図(対象をどうするのか)	社会性や社会規範を身につけることで、青少年の生きる力を育成する。
②施策の概要	青少年の健全育成を目的とする団体への支援のほか、青少年の生きる力を育てる活動の機会の提供や家庭教育の啓発を行うとともに、青少年の非行防止のための補導・相談活動を行う。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	家庭状況の変化等で青少年の異年齢交流、自然及び社会体験等の社会形成に必要な機会が減少し、その機会を事業として求めるニーズは年々高まっている。小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、犯行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自然体験や社会体験は中止となったが、事業の実施を目指して打ち合わせや検討を行い、団体はインターネット等を活用した活動を開始した。市内小中学校の依頼に対し迅速に子ども安全メールを配信し、登録についても啓発を行ったところ登録者数が前年度比105件増加した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	地域見守り活動従事者数(延べ)	人	1,397	1,278	1,125	1,300
	ii	ジュニアリーダーズクラブ新規加入者数	人	11	11	9	3
	iii						
③基本事業成果指標	i	青少年団体会員数	人	1,021	972	1,044	1,500
	ii	青少年社会参加・体験活動参加者数	人	6,399	5,789	2	12,000
	iii	街頭補導従事者数	人	1,397	1,278	1,125	1,300
	iv	「おやじの会」等設立数	団体	7	7	7	10
	v	家庭川柳応募数	件	1,536	1,466	1,451	1,500
	vi						
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)		令和3年度予算		
事業費(千円)	12,168	12,998	(単位:円)		119円	24,953	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	社会のモラルが多様化する中で、学校・家庭以外でも地域全体の教育力での青少年の育みが見直される中、地域の支援者及び子ども会等団体参加者の減少が見られる。今後、ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えると思われる。		
②総合評価	4未達成	③総合評価の理由	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業が行えなかったり、規模を縮小せざるを得なかった、また団体等の参加者の減少や高齢化に伴い、イベントの開催やイベント参加者の減少が見られる。

V 今後の方向性

①施策の方向性	→維持
②上記方向性の説明	青少年団体会員数が減少していることから、青少年の健全育成を目的とした事業を展開するためには、引き続き啓発や広報活動の強化を図る必要がある。
③特に重点化する事務事業	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費